

コリント人への手紙第Ⅰ 第10章 13節b

「神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることにはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道を備えてくださいます。」

試練に直面するとき、その試練に目を向けます。当然なことです。目を向けるばかりか、その試練に目だけでなく、心も体も向きます。試練が厳しければ厳しいほどより真剣に向き合わざるを得ないでしょう。そのうち、試練の渦の真ん中にいる自分を発見します。渦は自分をさらに深い試練へと引きずり込んでゆきます。

しかし、ここは、神は真実なお方です、と向けるべき方向をまったく異なって語るのです。試練がある事実を語ることをやめません。ただ、試練の見え方が変えられます。それは、試練を超えるお方、支配するお方を見始めるからです。そのお方を見て、聞くことが大事です。

このお方は試練とともに脱出の道を備えています。どのような道でしょうか。真実なお方が開いてくださる道です。試練のなか、その道を辿ることで真実なお方の確かさが体験してゆくことができます。その道を進むたびに、道を備えたお方の子らとしての歩みが身についてきます。そして、なによりも十字架による脱出の道です。